

# From the *World Conference*

## 日本脳神経外科学会 第76回学術総会

2017年10月12~14日 **日本・名古屋**

中溝 玲 国立病院機構九州医療センター脳神経外科科長

2017年で76回目を迎える日本脳神経外科学会の学術総会は、名古屋大学大学院医学系研究科脳神経外科教授の若林俊彦先生を学会長として、名古屋国際会議場で2017年10月12~14日の3日間にわたり開催された(写真1, 2)。日本脳神経外科学会学術総会は、1948年に新潟で開催された第48回日本外科学会総会に併催された第1回日本脳・神経外科研究会(斎藤真会長)がその起源であり、第1回の演題総数は26題であったという。名古屋大学といえば、脳動脈瘤治療を飛躍的に進歩させた名品である杉田クリップを開発した杉田虔一郎先生を輩出した名門としてその名を轟かせている。杉田クリップは、現在でも脳動脈瘤の治療に広く使用されている(写真3)。

2017年のメインタイトルは、「i知の創出—脳科学の

近未来—」ということで、近年の総会に負けず劣らずの趣向を凝らしたさまざまな企画が開催された。なかでも特別企画として、International symposium(グローバル化する脳神経外科医療)、Intelligence symposium(知性が結集する脳神経外科医療)、Inspiration symposium(創造・想像する脳神経外科医療)、Innovation symposium(技術革新を目指す脳神経外科医療)、Integration symposium(統合化する脳神経外科医療)、と銘打った5つの*i*-symposiumは、まさに今学会の目玉となる有意義な企画であり、最新の知見の共有と今後の脳科学の発展について深く学び、考えるよい機会となった。すでに臨床応用が開始されているiPS細胞による再生医療の脳神経外科領域への応用、宇宙における幹細胞培養を軸とした米国航空宇宙局(NASA)

写真1 名古屋国際会議場



写真2 中庭に面して立つ、幻のスフォルツァ騎馬像



SAMPLE